

運動器検診の実務マニュアル

(Ver. H270318. 1. 1)



平成 26 年 3 月 17 日 作成
平成 27 年 3 月 18 日 改定

目次	1
提言者から 二戸医師会 菅整形外科皮膚科クリニック 院長 菅 栄一	2
1 運動器検診とは	3
2 二戸市におけるモデルケース ・御返地小学校、御返地中学校の場合	4
3 運動器検診の実際	6
【就学時健康診断編】	7
1 学校医の役割	8
2 学校の役割	8
3 家庭（保護者）の役割	9
4 市町村教育委員会の役割	9
6 よくある質問とその回答	9
6 諸様式	11
【就学時健康診断編】	23
1 学校医の役割	23
2 学校の役割	23
3 家庭（保護者の役割）	23
4 市町村教育委員会の役割	23
5 よくある質問とその回答	23
4 資料編	24

提言者から 菅整形外科・皮膚科クリニック 院長 菅 栄一

成長期において、運動器の健全な発育、発達のために運動は不可欠ですが、運動はやり過ぎても、不足しても問題を引き起こします。

近年、児童生徒の未熟な運動器に負荷がかかり過ぎることによる運動器の障害が、早い時期から競技スポーツを行う子ども達に増加しています。成長期の骨関節障害は生涯続く可能性もあり、できるだけ早期にその疾患や障害の兆しを発見し対処することが、その子の将来に大きな意味を持てきます。

一方で、近年の児童生徒の生活習慣として運動機会が減少した結果、成長期に獲得すべきバランス能力・筋力の低下、体が硬いなどの運動器の発育不全が起こり、怪我をしやすい体になっていること、さらに肥満や痩せに繋がっている可能性もあります。

学校保健安全法（平成20年6月18日法律第73号）では、「脊柱・胸郭の検査の際には併せて四肢、骨、関節の異常にも注意する」とされていますが、学校健診で運動器検診とその記録は、必ずしも成されていないのが現状です。

児童の運動器の健全な発育が大切であることが認識され、2012年文部科学省から学校健診にスポーツ障害検査を導入するとの方針が示され、現在、児童生徒の健康診断項目について検討がされており、児童生徒関係者の早急な情報収集や準備が必要な状況です。

その様な中、二戸市立御返地小学校、二戸市立御返地中学校の協力をいただき、3年間にわたり、モデルケースとして運動器検診を行うとともに、H25に一般社団法人二戸医師会、二戸市学校保健会、二戸地区学校医連絡協議会へ、運動器検診導入をご提案申し上げ、来年度からの実施準備を承認いただいている所です。

児童生徒の健康を守るためと提案を受け入れてくださった、各団体の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

また、法改正前の提案ではありますがご理解いただき、ご協力くださる各自治体の教育委員会へも改めて御礼申し上げます。

この度、新しい取組を始めるに際しまして、運動器検診導入に向けたマニュアルを作成いたしました。

このマニュアルは、一緒に取り組みながら、成長させていきたいマニュアルだと考えております。皆様と実際に運動器検診を行ってみて、皆様のご意見をお聞かせいただきより良いものに改訂していければと考えています。

1 運動器検診とは

「運動器」とは、骨、関節、筋肉、靭帯、腱、神経など、体を支えたり動かしたりする器官の総称です。消化器、呼吸器、循環器等と同様に、からだを構成する大切な仕組みの一つです。

近年は、競技系スポーツを始める時期の低年齢化等による、運動器の使いすぎによる症例（例：野球肘やオスグッド症）が増加しています。

また、一方では少子化や放課後の塾などによる、遊ぶ仲間、時間、空間の「三間欠如」となり、ゲーム機などで屋内で一人遊びする子どもが増えて、生活習慣の中に運動習慣が少ない子どもたちも増えています。

運動器は、使いすぎ、使用不足、いずれにしても、子どもの将来に大きな影響を与えます。

「運動器検診」は、骨格の異常や、バランス能力、関節の痛み可動域制限がないか等、四肢体幹を検診することにより、運動の過不足による障害を早期にチェックし、早期に介入して、子どもの将来にわたって健康を守ることを目的にする検診です。

一年に一度の運動器検診では、日々成長する子供の体の変化を把握しきれません。検診に保護者、学校が関わる事で、一年を通して子供の体の変化に「気づく力、見守る目」を養って行く事も大きな意義だと思えます。

2 二戸市におけるモデルケース

- ・御返地小学校及び御返地中学校の場合
条件) 内科健診と同日に全学年施行

調査票を養護教諭が事前チェックし、内科健診時に調査票を確認しながら全員に運動器検診を行っている。

【調査表集計】

			H22年		H23年		H24年		平均
治療歴 ケガ・障害	小学校	低学年	1/27	3%	0/23	0%	1/23	4%	2%
		高学年	6/42	14%	5/36	14%	3/25	12%	13%
	中学校	9/41	22%	11/49	22%	11/36	30%	25%	
痛い部位	小学校	低学年	3/27	11%	2/23	8%	1/23	4%	7%
		高学年	8/42	19%	7/36	19%	8/25	32%	23%
	中学校	11/41	26%	10/49	20%	13/36	36%	27%	
治療中	小学校	低学年	0/27	0%	0/23	0%	0/23	0%	0%
		高学年	2/42	5%	4/36	11%	0/25	0%	5%
	中学校	3/41	7%	1/49	2%	1/36	3%	4%	

要 2次検診

小学校 1.2%
中学校 3.7%

・児童運動器障害の割合

	運動器	心臓	腎臓
小学校	2.1%	1.6%	0.56%
中学校	3.0%	2.2%	0.60%

(新潟県リハビリテーション病院 2011)

・運動器疾患罹患率

小学生 4% 中学生 7~10% 高校生 23~26%(平均 6~7%)
※学年とともに高くなる (2011 島根県)

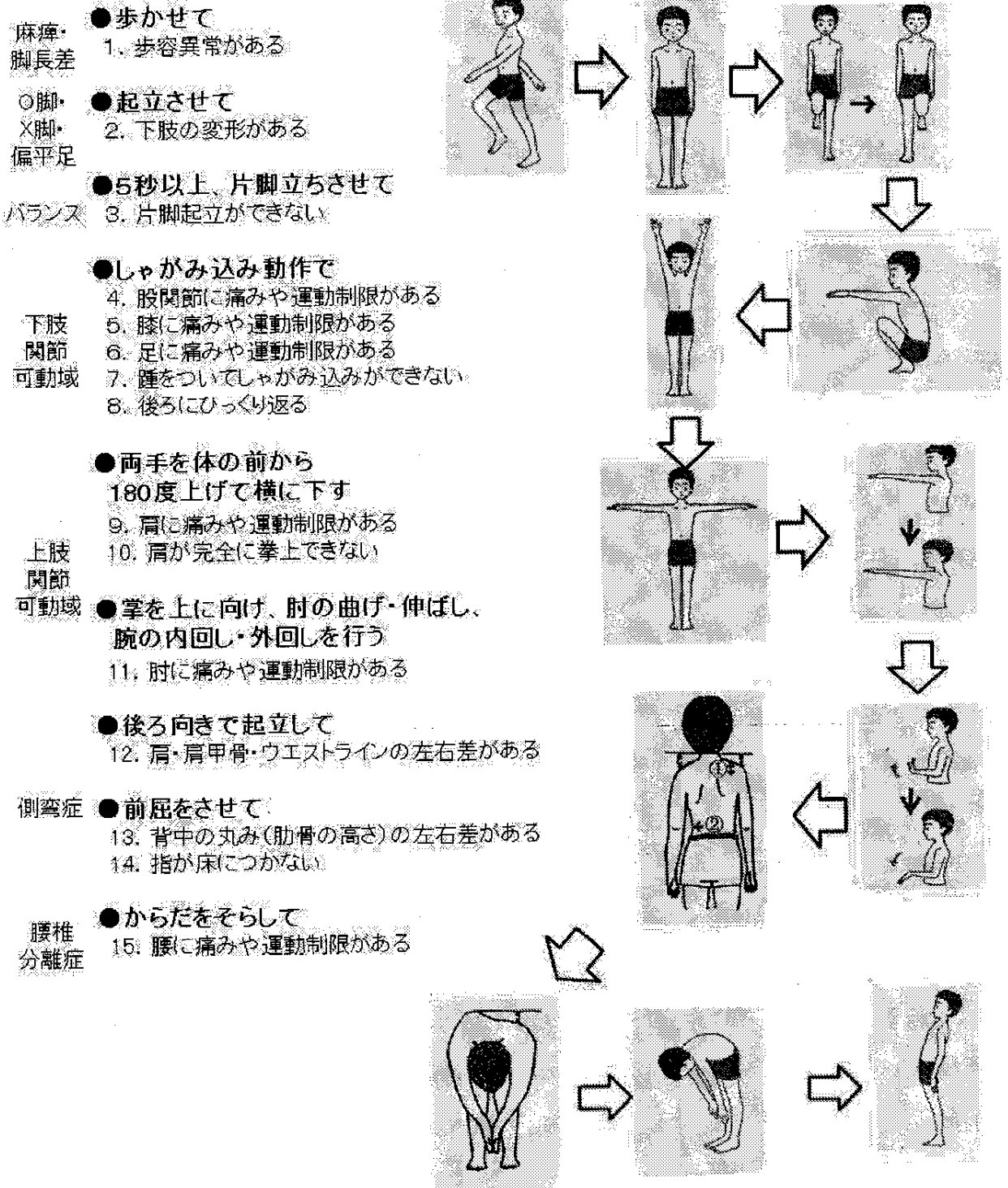
・運動器機能不全(体が固いバランスが悪い)

	就学時	5年生
1) 片脚立ち5秒できない	23.1%	10.4%
2) 腕が完全に上がらない	7.0%	8.0%
3) 体前屈で指先が床に届かない	17.5%	19.9%
4) シャガみ込みが出来ない	12.6%	16.4%
4項目の一つでも有する者	40.6%	36.2%

(2010 埼玉県)

3 運動器検診の実際

運動器検診一連の流れ(イラスト入り)



【定期健康診断編】

◎全体の流れ

運動器検診の役割分担（時系列）

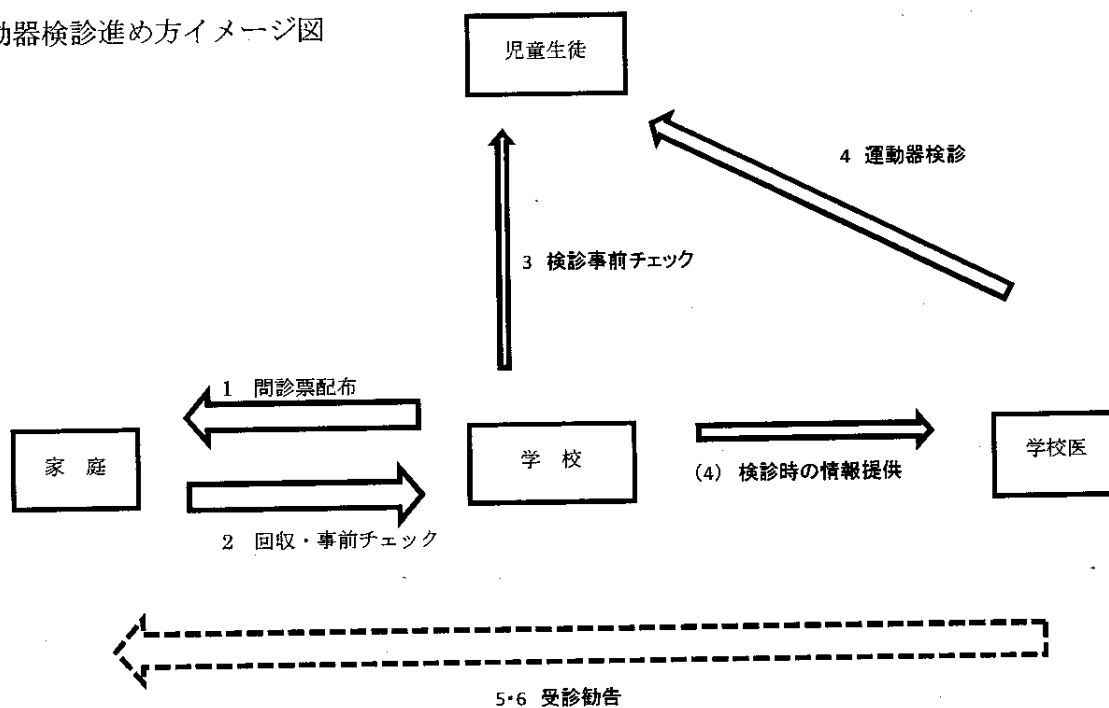
- ・定期健康診断時の役割分担について
次の表及び説明に示すとおりとする。

順序	項目	担当			内容	資料
		学校医	学校	家庭		
1	問診票作成		△	○	問診票を家庭に配布して記入したものを回収	問診票（様式1）
2	事前チェック①		○		問診票の内容をチェックし、運動器検診該当者を選出	
3	事前チェック②		○		学校で事前に運動器チェックを行い、該当者を選出	チェック表（様式2）
4	運動器検診	○	△		定期健康診断時に運動器検診を行う	診断記録票（様式3）
5	検診後の処理	○	△		必要に応じて、健康指導（受診勧告）を行う	受診勧告書（様式4）
6	適切な連絡体制		○	△	適切な連絡を行い、受診（治療）への繋ぎを行う	
7	治療	(○)		△	専門医での受診（治療）	
8	治療後の情報共有	○	◎	○	情報共有	

※ 表内の○は主担当、△は副担当を示す。

- 1 学校から家庭に問診票（様式1）を配布し、家庭で事前チェックを行ってもらおう。
- 2 回収した問診票の内容を学校がチェックし、運動器検診該当者（①）を選出。
- 3 内科健診前に、学校で様式2を用いて事前の運動器チェックを行い検診該当者（②）を選出。
- 4 学校医は、原則として内科健診時に①及び②の該当者を検診し、様式3に記入。
- 5・6 学校医は学校を通じて、二次検診が必要な者に受診勧告を行う（様式4を使用する）。

・運動器検診進め方イメージ図



・関係者の役割について

1 学校医の役割

原則として、定期健康診断時において、運動器検診を行う。

ただし、学校医と学校において、調整や事情により、定期健康診断以外の機会において運動器検診を行うことが効率的等であると判断した場合には、時期については、変更してよいこととし、その場合においてもできるだけ、健康診断を行うこととされている6月までに行うよう努力する。

検診は様式3に示す項目、チェック方法、基準のとおり行う。

2 学校の役割

学校は、大きく分けて3つの役割とする。

まず、定期健康診断を行う前に、家庭（保護者）から提出のあった様式1のチェック及び様式2による学校での事前のチェックを行うこと。

最後に、定期健康診断時に、学校医に対して、事前チェックで所見があった児童生徒の情報を伝達すること。

3 家庭（保護者）の役割

家庭（保護者）は、学校から検診事前に配布される、問診票への記載と、検診後に必要に応じて専門医等に児童生徒を連れて行くことが求められる。

4 市町村教育委員会の役割

教育委員会は、学校医の委嘱、健康診断の日程調整など、検診全体に関する事務的負担を負うこととする。

5 よくある質問とその回答

Q1 問診票、事前チェックリストに一つでも該当項目があれば、運動器検診の対象となりますか？

A1) 一つでもチェックがあれば、運動器検診の対象となり、学校医のチェックリストに沿って運動器検診を行うこととなります。

主旨は、見えている症状をスクリーニングを行うとともに、併せて潜在的な症状の発生を未然に防ぐことを目的としたスクリーニングを行うこと。（見えている患部をかばうため、体の他の部位に無理がかかっているか等をチェックします）

また、該当する部位を中心に校医によるダブルチェックで検診の精度が上がります。

Q2 新たな検診項目を増やすとなれば、健診時間が増えることになると思うが、導入初年度でどのくらいの時間がかかるのかとても不安です。

A2) 御返地小学校、御返地中学校の例から判断すると、事前チェックで該当するものが、多めにみて在学児童生徒数の約7%と想定している。この7%に対して運動器検診をお願いしたい。

増える時間の見込みとして、（該当学年児童生徒数）×7%×1～2分を想定している。ただし、検診が導入され、慣れてくれば、1分で検診することも可能になると考えています。

Q3 検診該当学年の考え方を教えてほしい。

A3) 検診該当学年は、小学3年、5年、中学2年を考えています。

これは、多くの小学校でスポーツ少年団の取組に加入できるのが、小学4年であるとのことから、その前後を検診することで、発育不全、運動器の使いすぎをチェックすることを目的にしています。

また、中学2年としたのは、入学してから1年間、中学の運動の量や質を体験してから、生徒の体に受けた影響を検診することを目的にしています。

Q4 上半身裸のイラストになっていますが、心理的負担が大きいと思われるので、Tシャツなどの着用について許可してよいですか？

A4) イラストは、「家庭でもチェックができるよう」左右差のどの部分を見ればよいのか分かりやすくするために、上半身裸になっています。

実際に学校での検診を行う際には、思春期の児童生徒（特に女子児童生徒）の心理的負担を考慮しながら、校医と相談の上、学校保健安全法施行規則第6条に定める「脊柱及び胸郭の疾病及び以上の有無」を検診できるよう服装を定めてください。

Q5 保護者への周知文書案をいただけませんか。

A5) 保護者への周知文書案を18ページにお示ししました。参考にしてください。

Q6 事前チェックにひっかかった該当児童生徒への個別対応とプライバシー保護が難しいと感じました。どのように対応すればよろしいでしょうか？

A6) 運動器障害、運動器発育不全は恥ずかしいことではありません。早く気付いてあげて対策を立てることがその子どもの将来にわたる健康を守ることになると考えて、通常の対応でお願いしたいと考えています。

Q7 運動器機能発育不全に対して、検診後はどのように対応していけばいいでしょうか？

A7) 学齢なりの柔軟性、バランスの能力を養う運動を考えて学校での指導に活かしてもらえれば、と考えています。

(参考資料「大人も知らないからだの本」P20-21) 例えば鬼ごっこ

Q8 学校の事前チェックリストですが、この様式の活用の仕方について教えてください。(小中学の情報引継ぎや単年度記載か否か、等)

A8) 検診後の様式ですが、健康手帳とともに当面の間保存して進学時には進学校へ情報伝達していただきたいと考えています。

Q9 事前チェックのやり方について質問です。中学校の場合、生徒同士で事前チェックを行った後、教員が確認、加筆することとしてよいか教えてください。

A9) 生徒同士の事前チェックの提案をいただきました。意識啓発の観点からは非常に意義のある質問だと思います。

運動器検診はあくまでも、児童生徒に対する検診であることから、生徒同士の相互チェックを上乗せ分として行うことは良いことだと思いますが、事前チェックはあくまでも大人の目で行うことにより、客観的な診断につなげたいと考えておりますので、学校のチェックは学校のチェックとして行ってください。

Q10 実施後の報告（統計処理等）はどのようになっていますか。教えてください。

A10) 御返地小学校、御返地中学校で使用している統計処理様式を参考に、学校での集計を行うための集計表を諸様式（22 ページ）に示します。

毎年度 10 月を目途に教育委員会経由で報告をいただき、取りまとめたいと考えております。

Q11 専門医への依頼が記述式になっているので記述例をお示してください。

A11) 記述例を 19 ページに記載しました。参考にしてください。

Q12 問診票への記載例をお示してください。

A12) 記述例を 20 ページに記載しました。参考にしてください。

Q13 検診で、「しゃがみこみができない」「後ろにひっくり返る」「指が床につかない」、この 3 項目にチェックが入った児童生徒に対して、医師のチェックが入った後の指導はどうすればよいか教えてください。

A13) 3 項目にチェックが入ることは、いわゆる運動器機能不全が疑われます。運動器機能不全は、原因別に大きく次の表で分類されると考えられますが、対応については、原因別に対応が必要と思われまます。

表) 運動器機能不全の原因別分類

A) 運動器疾患に起因する運動器機能不全

(先天性・後天性・外傷性を含む整形外科疾患に起因する)

B) 運動過多に起因する運動器機能不全

(スポーツ傷害に起因する)

C) 運動不足に起因する運動機能不全

ア) “真の” 運動器機能不全

(運動器の機能の障害による)

イ) “見かけ上の” 運動器機能不全

(生活様式等に起因するもので、練習すれば容易に機能を獲得できる)

この中でも、一番下の“見かけ上の”運動器機能不全への対応は、家庭でも学校でも行うことができる、子どもロコモ体操の動きを参考にした指導が有効かと思えます。

子どもロコモ体操はインターネットの動画でも見ることができます。

インターネットの URL を資料編（24 ページ）に記載しました。参考にしてください。

運動器検診問診票

年 組 番 名 前

男・女

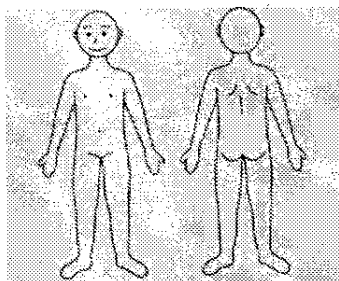
以下の質問のあてはまる方を○で囲み、必要なことを【 】に書いてください。

- ① 体のどこかに痛いところがありますか？今痛くなくても6カ月前から現在までに痛かった場合も教えてください。右にある人の絵を見ながら痛い場所に○をつけ、人の絵にも○をつけてください(いくつでも)

ない

ある

- ①首 ②肩 ③肘 ④手首 ⑤手
 ⑥背中 ⑦腰 ⑧もものつけ根 ⑨膝
 ⑩もも ⑪足首 ⑫かかと ⑬足
 ⑭その他【具体的に: _____】



その場所は今はどのような感じですか？次のあてはまるものを○で囲んで、痛い(痛かった)場所の番号を書いてください。

- まがりや伸びが悪い 【 _____ 】
 何もしない時も痛い 【 _____ 】
 運動していると痛い 【 _____ 】
 もう治っていると思う 【 _____ 】

- ② 骨、関節や背骨のけがや故障で現在治療(整形外科のほか、接骨院、整体などを含む)を受けていますか？ あればどのようなけがや故障かを書いてください。

ある【 _____ 】 ない

治療はどこで受けていますか？○をつけてください。

整形外科 接骨院 整体 その他【 _____ 】

- ③ 今までに、骨、関節や背骨のけがや故障で治療(整形外科の他、接骨院、整体等を含む)を受けたことがありますか？ あれば何歳頃、どこを治療したかを書いてください。(例:10歳の頃、ひざ)

ある【 _____ 】 ない

そのけがや故障が原因で今も痛みや困っていることがありますか？ あれば具体的に書いてください。

ある【 _____ 】 ない

- ④ 運動部、スポーツ教室、スポーツクラブなどに入っていますか？ (舞踏、演劇など繰り返し体を動かす類の部活、クラブ、習い事も含む)

はい いいえ

その種目は何ですか？(2つ以上ある場合は主なものを2つまで書いてください)

1. 【 _____ 】 2. 【 _____ 】

そのスポーツでの専門のポジションがあれば書いてください。
 (例:野球:投手、バレーボール:アタッカー、サッカー:キーパー等)

なし あり(_____)

裏面にも記入をお願いします。

一側わん症チェック

年 組 番 名前

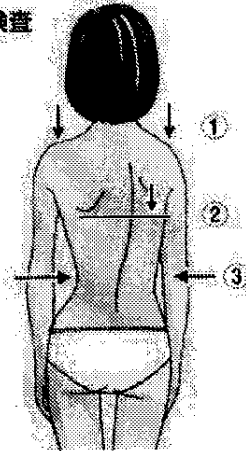
男・女

5 下のような姿勢でお子さんの背中をチェックして○をつけてください。

上半身裸で後ろから見て、

- ① 肩の高さの左右差
あり ・ なし
- ② 肩甲骨の高さの左右差
あり ・ なし
- ③ ウエストラインの左右差
あり ・ なし

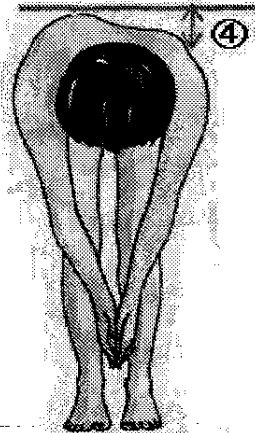
立位検査



前屈検査

肩幅に足を開き、腕を伸ばして手のひらを合わせ
ゆっくりと手を前にたらしながら前屈して、

- ④ 背中の高さの左右差
あり ・ なし



脊柱の側わんが進行する前に、できるだけ早期に発見したいものです。
そのために、家庭でも前屈時の背部の左右差チェックを行ってみてください。

6 その他骨、背骨、関節、筋肉など(運動器)で気になる症状があれば下枠の記入欄に書いてください。

.....

.....

“ところで『側わん症』ってなに？”

脊柱が側方に曲がり、多くの場合脊柱自体のねじれを伴います。大部分は学童後半(10歳頃)から発生します。脊柱がひどく曲がってしまうと呼吸障害などの重篤な障害を生じます。(参考: 広島県医師会 松本治之先生作成)

ご協力有難うございました。

運動器検診チェックリスト (学校事前チェック用)

生徒・児童名

項 目		小学3年 (月 日)	小学5年 (月 日)	中学2年 (月 日)
バランス	●5秒以上、片脚立ちさせて			
	3. 片脚起立ができない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
下肢 関節 可動域	●しゃがみ込み動作で			
	4. 股関節に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	5. 膝に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	6. 足に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	7. 踵をついてしゃがみ込みができない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	8. 後ろにひっくり返る	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
上肢 関節 可動域	●両手を体の前から 180度上げて横に下す			
	9. 肩に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	10. 肩が完全に拳上できない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	●掌を上に向け、肘の曲げ・伸ばし、 腕の内回し・外回しを行う			
	11. 肘に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
側弯症	●前屈をさせて			
	14. 指が床につかない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
備考				

運動器検診チェックリスト (担当医記入)

生徒・児童名

項目	小学3年(月日)	小学5年(月日)	中学2年(月日)	
麻痺・脚長差	●歩かせて			
	1. 歩容異常がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
○脚・X脚・偏平足	●起立させて			
	2. 下肢の変形がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
バランス	●5秒以上、片脚立ちさせて			
	3. 片脚起立ができない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
下肢関節可動域	●しゃがみ込み動作で			
	4. 股関節に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	5. 膝に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	6. 足に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	7. 踵をついてしゃがみ込みができない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
上肢関節可動域	●後ろ向きで起立して			
	8. 後ろにひっくり返る	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	●両手を体の前から180度上げて横に下す			
	9. 肩に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	10. 肩が完全に挙上できない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
側弯症	●掌を上に向け、肘の曲げ・伸ばし、腕の内回し・外回しを行う			
	11. 肘に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
側弯症	●後ろ向きで起立して			
	12. 肩・肩甲骨・ウエストラインの左右差がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	●前屈をさせて			
側弯症	13. 背中の丸み(肋骨の高さ)の左右差がある			
	14. 指が床につかない	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
腰椎分離症	●からだをそらして			
	15. 腰に痛みや運動制限がある	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし	所見あり・所見なし
	2次検診の要否	要:事由[]のため 不要	要:事由[]のため 不要	要:事由[]のため 不要
備考				

平成 年 月 日

保護者様

学校名

学校長名

運動器検診結果のお知らせ

下記児童・生徒の運動器検診の結果、二次検診を受ける必要があると判断されましたので、整形外科専門医で検査を受けるようお願いいたします。

年 組 (歳) 氏名

(検診日 年 月 日)

所見のあった事項	所見個所
	所見事由

* 連絡欄

平成 年 月 日

整形外科専門医 様

学 校 名

学校長名

運動器検診（二次検診）依頼

下記児童・生徒の運動器検診の結果、二次検診を受ける必要があると判断されましたので、ご高診の程宜しくお願いいたします。

恐れ入りますが、ご面倒でも検査結果を、ご記入のうえ本人にお渡しくくださるようお願いいたします。

年 組 (歳)
氏名

(検診日 年 月 日)

所見のあった事項	所見箇所
	所見事由

運動器検診（二次検診）結果報告書

* 2次検診結果

【 】 所見なし

【 】 所見あり

* 指 導 事 項

【 】 処置不要

【 】 経過観察を要する (カ月後受診・)

【 】 治療を要する ())

* 連 絡 欄

上記のとおり報告いたします

平成 年 月 日

病 院 名

医 師 名

【参考】 保護者あての文書案

平成26年 4月 1日

保護者様

学校名 ○○立△△学校

学校長名 二戸太郎

運動器検診実施のお知らせ

子供たちが健康で過ごやかな学校生活を送るには、健康に気を付けることがとても大切です。

近年は、児童生徒の未熟な骨や関節、筋肉等に負荷がかかり過ぎることによる障害が、早い時期から競技スポーツを行う子ども達に増加しています。

成長期の骨や関節の障害は生涯続く可能性もあり、できるだけ早期にその疾患や障害の兆しを発見し対処することが、その子の将来に大きな意味を持ってきます。

また一方で、近年の児童生徒の生活習慣として運動機会が減少した結果、成長期に獲得すべきバランス能力・筋力の低下、体が硬いなど運動器の発育不全が起こり、怪我をしやすい体になっていること、さらに肥満や痩せに繋がっている可能性もあります。

このように、運動はやり過ぎても、不足しても問題を引き起こします。

そのようなことから、二戸地区では定期健康診断の際に、運動器検診を行います。

この問診票は、運動器検診が正しく行われるために必要ですので、お子様と保護者の方々のご協力による正確な記入をお願いします。

・運動器検診とは

「運動器」とは、骨、関節、筋肉、靭帯、腱、神経など、体を支えたり動かしたりする器官の総称です。消化器、呼吸器、循環器等と同様に、からだを構成する大切な仕組みの一つです。

近年は、競技系スポーツを始める時期の低年齢化等による、運動器の使いすぎによる症例（例：野球肘やオスグッド症）が増加しています。

また、一方では、ゲームやスマートフォンの普及に伴い、生活習慣の中に運動習慣が少ない子どもたちも増えています。

運動器は、使いすぎ、使用不足、いずれにしても、子どもの将来に大きな影響を与えます。

「運動器検診」は、骨格の異常や、バランス能力、関節の痛み可動域制限がないか等を検診することにより、運動の過不足による障害を早期にチェックし、子どもの将来にわたって健康を守ることを目的にする検診です。

運動器検診問診票

年 組 番 名 前

男・女

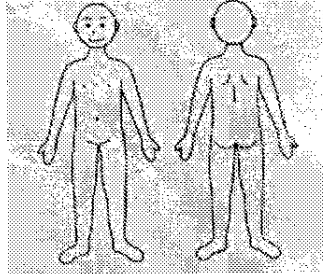
以下の質問のあてはまる方を○で囲み、必要なことを【 】に書いてください。

- ① 体のどこかに痛いところがありますか？今痛くなくても6カ月前から現在までに痛かった場合も教えてください。右にある人の絵を見ながら痛い場所に○をつけ、人の絵にも○をつけてください(いくつでも)

ない

ある

- ①首 ②肩 ③肘 ④手首 ⑤手
⑥背中 ⑦腰 ⑧もものつけ根 ⑨膝
⑩もも ⑪足首 ⑫かかと ⑬足
⑭その他【具体的に: _____】



その場所は今はどのような感じですか？次のあてはまるものを○で囲んで、痛い(痛かった)場所の番号を書いてください。

- まがりや伸びが悪い 【 _____ 】
何もしない時も痛い 【 _____ 】
運動していると痛い 【野球部でキャッチボールしているとたまに痛む】
もう治っていると思う 【 _____ 】

- ② 骨、関節や背骨のけがや故障で現在治療(整形外科のほか、接骨院、整体などを含む)を受けていますか？ あればどのようなけがや故障かを書いてください。

ある ②の肩 【 _____ 】 ない

治療はどこで受けていますか？○をつけてください。

整形外科 接骨院 整体 その他【 _____ 】

- ③ 今までに、骨、関節や背骨のけがや故障で治療(整形外科の他、接骨院、整体等を含む)を受けたことがありますか？ あれば何歳頃、どこを治療したかを書いてください。(例:10歳の頃、ひざ)

ある【 _____ 】 ない

そのけがや故障が原因で今も痛みや困っていることがありますか？ あれば具体的に書いてください。

ある【 _____ 】 ない

- ④ 運動部、スポーツ教室、スポーツクラブなどに入っていますか？ (舞踏、演劇など繰り返し体を動かす類の部活、クラブ、習い事も含む)

はい いいえ

その種目は何ですか？(2つ以上ある場合は主なものを2つまで書いてください)

1. 【 野球 】 2. 【 _____ 】

そのスポーツでの専門のポジションがあれば書いてください。
(例:野球:投手、 バレーボール:アタッカー、 サッカー:キーパー等)

なし あり(投手・外野手)

裏面にも記入をお願いします。

一側わん症チェック

年 組 番 名 前

男・女

5 下のような姿勢でお子さんの背中をチェックして○をつけてください。

上半身裸で後ろから見て、

立位検査

① 肩の高さの左右差

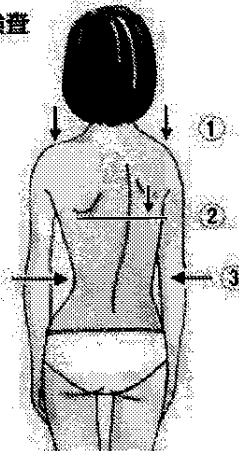
あり なし

② 肩甲骨の高さの左右差

あり なし

③ ウエストラインの左右差

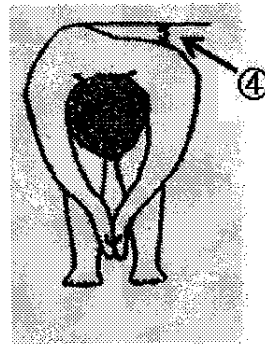
あり なし



日本側弯症学会編集
側弯のしおり
知っておきたい脊柱側弯症
より引用

肩幅に足を開き、腕を伸ばして手のひらを合わせ
ゆっくりと手を前にたらしながら前屈して、

④ 背中の高さの左右差
あり なし



脊柱の側わんが進行する前に、できるだけ早期に発見したいものです。
そのために、家庭でも前屈時の背部の左右差チェックを行って下さい。

6 その他骨、背骨、関節、筋肉など(運動器)で気になる症状があれば下枠の記入欄に書いてください。

.....

.....

【トピックス】

“ところで『側わん症』ってなに？”

脊柱が側方に曲がり、多くの場合脊柱自体のねじれを伴います。大部分は学童後半(10歳頃)から発生します。脊柱がひどく曲がってしまうと呼吸障害などの重篤な障害を生じます。(参考: 広島県医師会 松本治之先生作成)

定期健康診断時には、脊柱及び胸部の疾病及び異常の有無(脊柱の疾病及び異常の有無は、形態等について検査し、側わん症等に注意する。胸部の異常の有無は、形態及び発育について検査する。骨、関節の異常及び四肢運動障害等の発見につとめる。) (学校保健安全法施行規則(平成21年4月1日改正))と表記されております。

ご協力有難うございました。

運動器機能診断票一式

※0/ない

学年	番号	肥満度 体格指数	①既往歴	②-2項往歴による不具合	③現在治療中のけが等	④運動歴	⑤-2専門のボクシング	⑥痛みチェック	⑦-3痛み詳細	⑧疼痛チェック	⑨その他

該当がある場合には、
問診票の体のイラストの
番号を記入すること。

所見ありは「1」、
所見なしは「0」を記入
(①~⑧)

ぶくぶく音が強い → 1を
何もしない時痛む → 2を
運動しているとき痛む → 3を
もつれていると思う → 4を
それぞれ記入し、詳細を文章で記入

この様式は、学校での集計用の様式です。
学年、番号、肥満度については、該当する情報を記入。
①から⑧は様式1問診票の項目とリンクしています。
①から⑧は様式1問診票の項目とリンクしています。
「1」が記入された児童生徒は、右隣の欄に、詳細を記入してください。
その他、注意事項は、囲み書きのとおりです。

※ 様式欄に、①から⑧の項目について、集計を取ったものを教育委員会へ報告をお願いします。
(教育委員会を通じて提出依頼を行います)

麻痺 脚長径 歩かせで 1歩容異常	O脚×脚 扁平側 扁平足 起立させて 2下股変形	バランス 50以上非難点あり	下肢関節可動域		上肢関節可動域		側弯症		腰椎分難症 身体でなし 15 腰痛み	2次検診 要否	備考
			しゃがみ込み動作で 6 足痛み 5 膝痛み 4 股関節痛み	6 足痛み 7 しゃがみこみ 8 しゃがみこみ	両手180度上げ 9 肩痛み 10 肩差上	肘曲げ伸ばし 11 肘痛み	後向き起立 12 肩左右差 13 背中左右差	14 指床つき			

二次検診要する場合は「1」を
要しない場合は「0」を
それぞれ記入

この様式は、学校での集計用の様式です。
学年、番号、肥満度については、該当する情報を記入。
①から⑧は様式1問診票の項目とリンクしています。
所見があれば、「0(ゼロ)」を記入し、所見がある場合には、「1(いち)」を記入してください。

平成26年 5月30日

保護者様

学校名 ○○立△△学校

学校長名 二戸 太郎

運動器検診結果のお知らせ

下記児童・生徒の運動器検診の結果、二次検診を受ける必要があると判断されましたので、整形外科専門医で検査を受けるようお願いいたします。

○年 ○組 (△△歳)
氏名 一戸 花子

所見個所は体の
部位を記入してください。

(検診日 26年 5月15日)

所見のあった事項	所見個所 下肢
	所見事由 起立させて、下肢の変形がある (○脚の疑い)

所見事由は、
“担当医記入のチェックリスト”に使用されている
文言を使って記入してください。

※所見個所と所見事由は、整形外科専門医あての
運動器検診(二次検診)依頼も同じ内容で記載してください。

*連絡欄

運動器検診(二次検診)依頼を持って、整形外科専門医の受診をしてください。

受診後は、運動器検診(二次検診)結果報告書を学校へ提出してください。

提出は9月12日までに担任へお願いします。

平成 年 月 日

整形外科専門医 様

学校名
学校長名

運動器検診（二次検診）依頼

下記児童・生徒の運動器検診の結果、二次検診を受ける必要があると判断されましたので、ご高診の程宜しくお願いいたします。

恐れ入りますが、ご面倒でも検査結果を、ご記入のうえ本人にお渡しくださるようお願いいたします。

年 組 (歳)
氏名

(検診日 年 月 日)

所見のあった事項	所見個所 下肢
	所見事由 起立させて、下肢の変形がある (○脚の疑い)

運動器検診（二次検診）結果報告書

* 2次検診結果

- 所見なし
 所見あり

* 指 導 事 項

- 処置不要
 経過観察を要する (月後受診)
 治療を要する ()

* 連 絡 欄

上記のとおり報告いたします

平成 年 月 日

病 院 名
医 師 名

【就学時健康診断編】

- ・関係者の役割について

1 学校医の役割

就学時健診時に、運動器検診を行う。

保護者に学校と同じ調査票に記入してもらい、調査票を見ながら学校医が検診を行う。保護者が側にいて運動器検診を見せ、学校医は、保護者にその意義を啓発する。

2 学校の役割

学校は、就学時健康診断時に、学校医の補助を行い、運動器健康診断を進める。

3 家庭（保護者）の役割

家庭（保護者）は、検診後に必要に応じて専門医等に児童生徒を連れて行くことが求められる。

4 市町村教育委員会の役割

就学時健康診断は、教育委員会が主担当として行う事業であり、二戸地区においても、使用する様式等は、市町村ごとに異なっている。

家庭で健診前に記入する問診票に運動器に関する事項を記入する欄を設けたり、必要に応じて、定期健康診断の様式に準じた問診票を増やしたりする等の調整を担当する。

5 よくある質問とその回答

Q 就学時健診で運動器検診を行うことは、対象者が低年齢で、検診を受ける幼児の負担が心配です。

A) 就学時健診において、運動器検診を行うことは、これから小学校に入学

する幼児の成長具合を保護者とともに見ることができる貴重な機会です。

気になることがあれば、保護者にその日の内に伝えることが大きなメリットです。

低年齢で、検診を受ける幼児の負担を心配している、とのことですが、研修会で配布したDVDにもあるとおり、検診を担当する医師が幼児の目の前で動きの見本を示すことで、幼児の負担を減らすとともに、時間を短縮した効率的な検診を行うことができます。